

志学式に当たって



多久市立東原厩舎中央校 校長 下村 昌弘

「人間、志を立てるのに遅すぎるということはない」。

これは、イギリスの政治家で首相も務めたスタンリー・ボールドウィン（1867～1947）の言葉です。

ボールドウィンが40歳の時に政治家である父親が亡くなり、後を継いで立候補しようとしたときに、周りから「遅すぎる」と言われて、ボールドウィンが答えた言葉だと言われています。

人生をやり直すことは出来ませんが、人生を新しく始めることはできます。いくつになっても、いつからでも始めようと決意したときが「始め時」です。

吉田松陰の教えにも「志をもって万事の源となす」というものがあります。

「何事も志がなければならぬ。志を立てることこそが、全ての源となる」という意味です。

私も皆さんと同じくらいの年齢の時、父から「意志あるところに道は拓ける

(Where there is a will, there is a way.)」という言葉が教えてもらいました。

さて、今日は志学式。

こうした節目があることは、東原厩舎の流れをくむこの学び舎で学ぶ君たちにとって幸いなことです。

かつてこの厩舎で学んだ人たちも、論語の教えである「子曰く、吾十有五にして学に志す」を座右の銘として、道を志したことでしょう。

さて皆さんは、今日、どんな志を言葉にするのでしょうか。

言霊(ことだま) (言葉には霊的な力が宿る)という言葉もあるとお

り、言葉にするという行為は、その言葉の意味する内容の実現へと私たちがいざなってくれるます。

今日は、仲間の思いをしっかりと受け止めながら、自らも未来を志向し、一人ひとりが今日をきっかけに、新たなスタートを踏み出してください。

そして、今日の「志」は、折に触れ見つめなおし、その都度アップデート（より新しいものに書き換える）されていて構いません。いや、むしろそうなることこそが、人として成長することなのです。

皆さんの自立に向けたこの一歩を心から喜び、後押ししたいと思います。
頑張れ、8年生！ 頑張れ、青春真ただ中！